

陸軍強首演習場

強首演習場は陸軍演習場の1つで、現在の大仙市強首地域にあった。明治36（1903）年に強首地域大巻の大部分が射撃場用地とされ、その後、上野台が戦闘射撃演習地となったようだ。

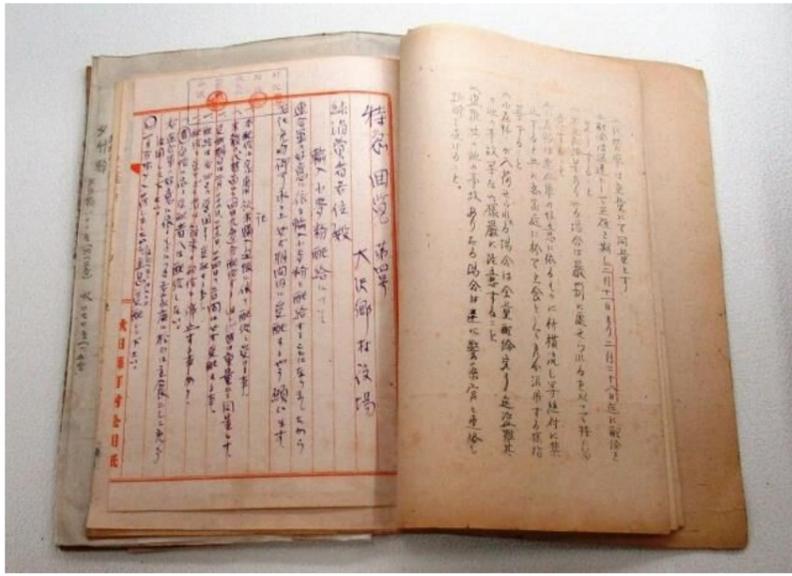
日露戦争（明治37～38年）後の明治40（1907）年には、「仙北郡強首村上野岱^{うえのだい}」に、大隊本部の^{しょうしゃ}廠舎4棟、浴室、炊事場、衛兵場などが設けられた。建築材料には病院や倉庫の廃材が使われたバラック式の建物が建設された。

この演習場は歩兵第17連隊をはじめとする県内の歩兵部隊が演習に使用し、演習場内には^{こわくびえんしゅうしょうしゃ}強首演習廠舎が設けられ、歩兵1個大隊が宿営できるようになっていた。演習場では、歩兵部隊の戦闘訓練や射撃訓練が行われていたが、旧制中学や青年学校の軍事教練にも使用された。演習では秋田市からの行軍訓練なども行われていたようだ。

長らく使われてきた演習場だったが、終戦を迎えると、農地として開拓事業へ演習場の跡地が提供された。開拓事業の結果、場内の兵舎は住居として払い下げられ、かつての演習地は農地へと変わり、現在はわずかに遺構を残すのみとなっている。

残されたトーチカの跡





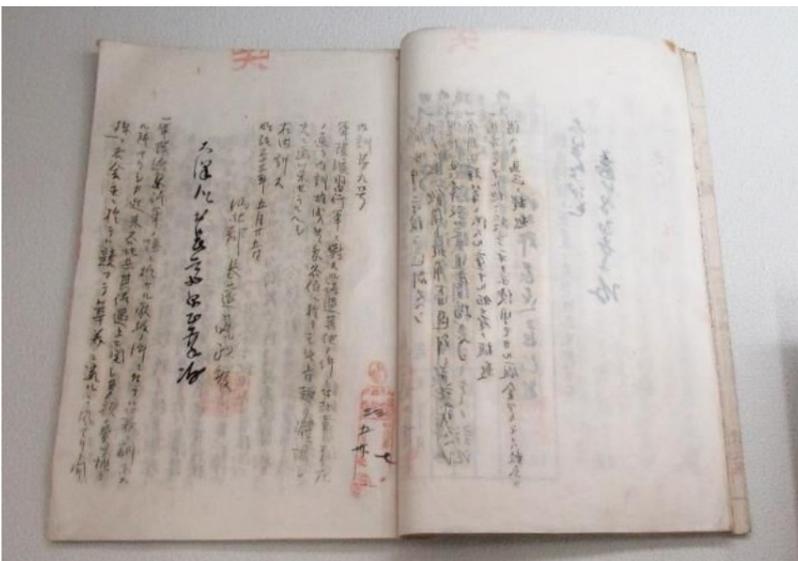
庶務事務簿

大沢郷村役場の庶務文書の綴。この中で、秋田県で行われていた行軍演習について、華美なもてなしはしないようにという通達が記録されている。
(大沢郷村役場文書)



秋田県の戦友 I 写真集 歩兵第十七聯隊

ツバサ広業株式会社から発行された歩兵第 17 聯隊に関する書籍。

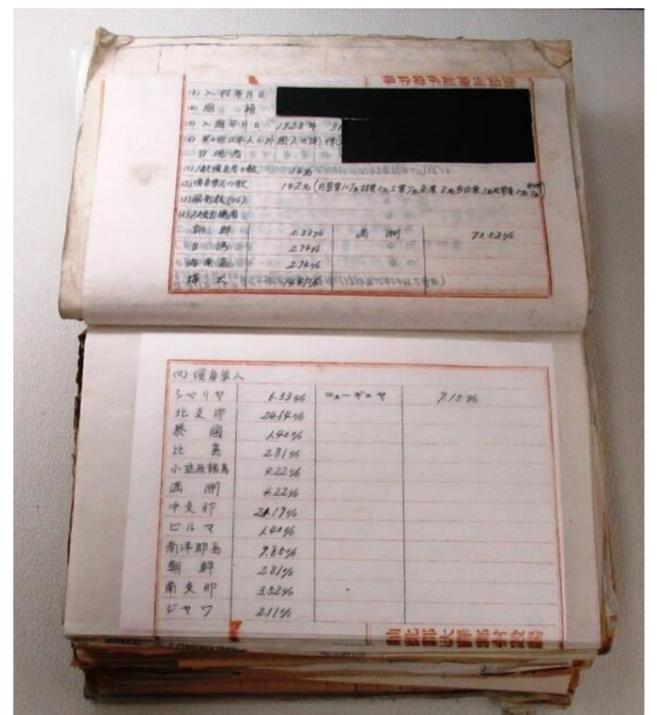


連合軍好意 輸入米穀配給台帳

昭和 22 年に行われた配給について書かれた公文書。終戦後も食糧が足らず、アメリカから麦やトウモロコシが輸入されて配給されていたことがわかる。
(大沢郷村役場文書)

庶務事務簿

大沢郷村の庶務事務簿には、引揚者の記録も残されている。戦後、外地から多くの人々が引き揚げたが、大沢郷村でも人口 4, 4 2 5 名のうち引揚者は 1 4 2 名を数えた。
(大沢郷村役場文書)



終戦と戦後開拓事業

昭和20（1945）年の終戦後は、上野台開拓事業により演習場跡地への入植が行われた。

日本では、戦前に、農地不足の対策として、満州などに開拓団の派遣を行ったが、敗戦後、そうして海を渡った人々が大勢日本へ引き揚げざるをえなくなった。そこに軍人として従軍していた人々なども加わり、数百万人にもおよぶ人々が日本へ帰国することとなった。その結果、職にあぶれる人が多く発生し、また、戦中の無理な耕作で、農業の生産力が落ちていたこともあり、就業機会と食糧の不足が発生する。こうした問題を解決するため、国は緊急開拓事業の要綱を定め、大々的に開拓事業を開始する。

国内の様々な場所が開拓地として提供されたが、それまで農耕の対象外だった軍用跡地も対象となった。軍用跡地は国有地であることが多く、比較的早く農地として提供できるメリットがあった。秋田県内では、能代市の東雲^{しののめ}原^{はら}の陸軍飛行場跡地へも入植が行われている。

上野台開拓事業の際に住居に転用された廠舎
（写真：上野台部落会提供）



戦後開拓のあゆみ

戦後開拓では、国内の多くの土地が入植地として提供された。しかし、これまで耕作されていない場所というだけあって、多くが耕作に適さない土壌であったり、交通が不便な土地であったりしたため、少なくない離農者も出た。秋田県内でも開拓事業で入植したものの、その後放棄された場所が数多くあった。

強首演習場への入植は戦後すぐの昭和20（1945）年10月から行われ、復員軍人等の就労対策として、国が戦後の緊急開拓事業の要綱を定めるよりも先に開始された。国の政策を待たずして、開始された開拓だったが、開拓を主導していた団体が開始の数か月後にはGHQから解散を命じられるなど、その船出は順風満帆とはいかなかった。

また、強首演習場もほかの例にもれず、農地としての条件は決して良いものではなかった。大部分の土壌は強酸性で、作物を育てるには厳しい環境だった。そのような中で、大豆やイモなどの栽培を行ってみたものの、収量が少なく、収入を得るために冬場出稼ぎに出た入植者もいた。場所によっては畑作や稲作で農業経営が成り立つ農家もあったが、畑作をあきらめ、酪農へ転換する農家も多く出た。さまざまな困難がありながらも、平成6年には、生乳販売金額1億円を突破するまでになった。

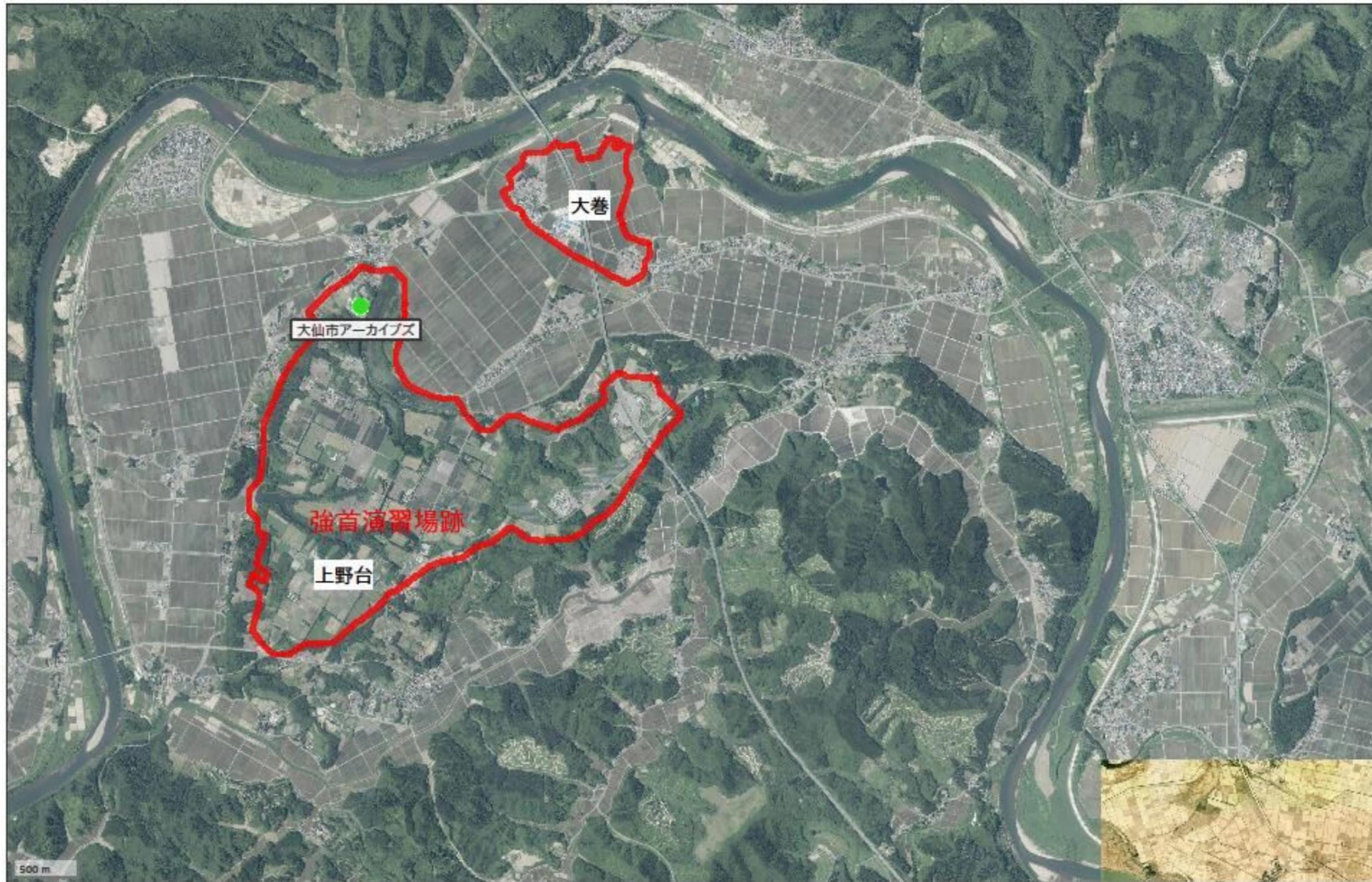
こうした経験は、集落の誕生50年を記念して刊行された『上野台部落誕生五十周年記念誌』の中でも詳しく語られている。

陸軍強首演習場位置図

地理院地図 / GSI Maps | 国土地理院

<https://maps.gsi.go.jp/#14/39.541448/140.309572/&base=ort&is=ort&disp=1&vs-cl>

地理院地図
GSI Maps



『秋田県の戦争遺跡一次世代を担うあなたへ』 2020 秋田文化出版株式会社 をもとに作成